

- ◆ **今週のコメント** (感染地域、感染経路については推定を含みます。)
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(10歳未満男性及び10歳代女性)(第28週追加報告分1例含む。)ありました。本年の累積報告数は9例となっています。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
 - レジオネラ症(肺炎型)の報告が4例(60歳代男性2例, 80歳代男性1例及び80歳代女性1例)ありました。4例ともに感染地域は国内です。本年の累積報告数は16例となりました。

レジオネラ症(肺炎型)は土壌や水環境に普通に存在するレジオネラ属菌がヒトに吸引されて感染します。例年7月に多く発生し、しばしば旅行と関連して見られます。ヒトからヒトへの感染はありませんが、レジオネラ属菌は、冷却塔、給湯系などの人工環境にアメーバを宿主として増殖するため、エアロゾルを発生させるジャグジー、加湿器及び循環水を利用した風呂等は感染の機会を増やすおそれがあり、注意が必要です。
 - クロイツフェルト・ヤコブ病の報告が1例(70歳代女性)あります。症状は進行性認知症・ミオクローヌス・小脳症状・視覚異常・精神障害・知能障害で、感染地域、感染経路は不明です。本年初めての報告となっています。
 - 手足口病が定点当たり報告数2.60, またヘルパンギーナが定点当たり報告数1.84となり、ともに4週連続して増加しています。
- ◆ **今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>**
- 京都市の腸管出血性大腸菌感染症は第29週に1例の報告があり、年間累積報告数が9例となりました。全国の報告数は3週続けて増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 194例(肺結核 81例, その他結核 48例, 潜在性結核感染者 65例)うち喀痰塗抹陽性 44例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数9例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 4例【1月以降の累積報告数 16例】
- 五類:クロイツフェルト・ヤコブ病 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

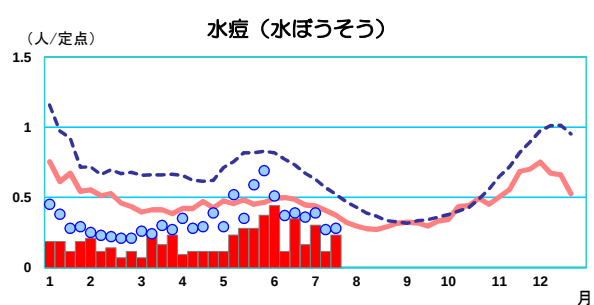
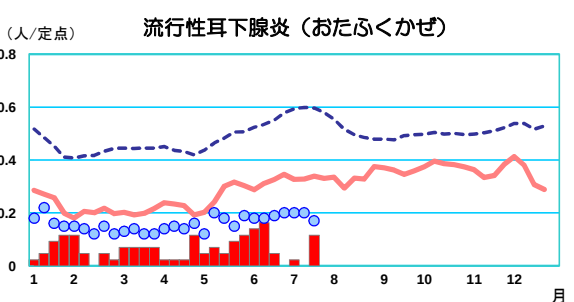
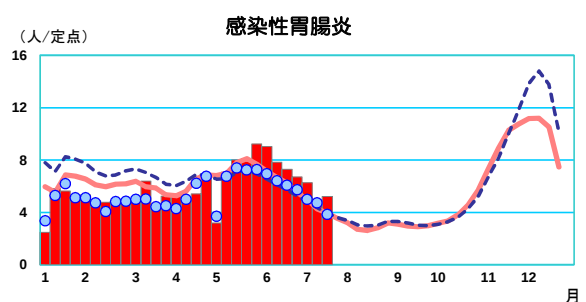
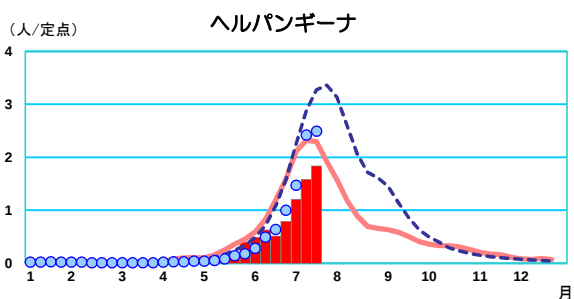
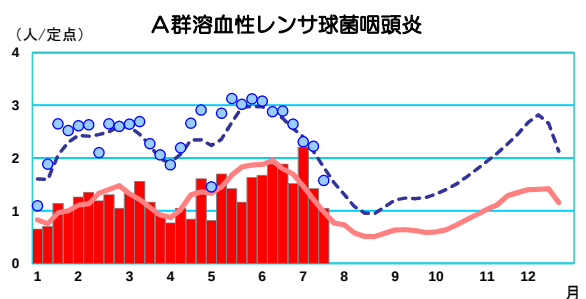
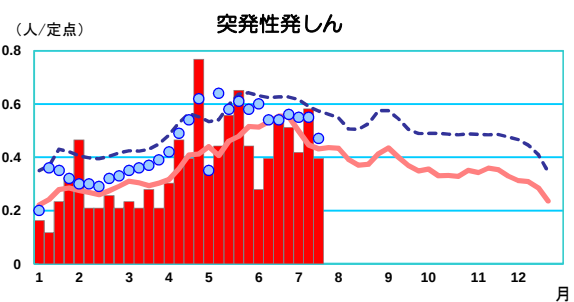
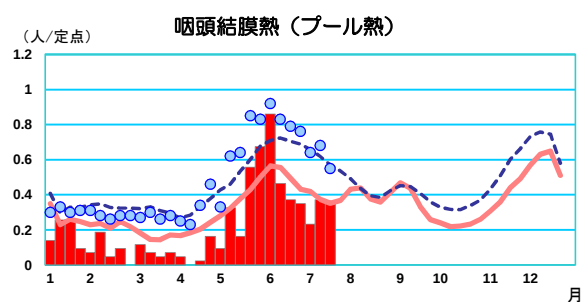
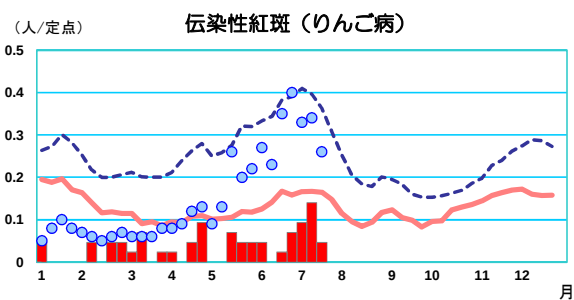
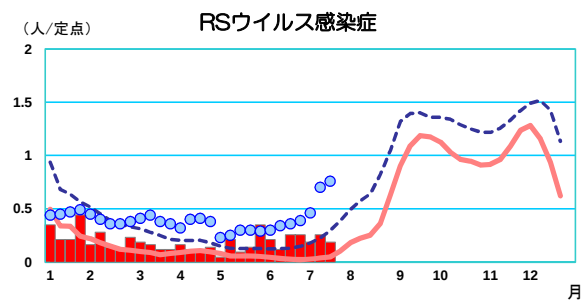
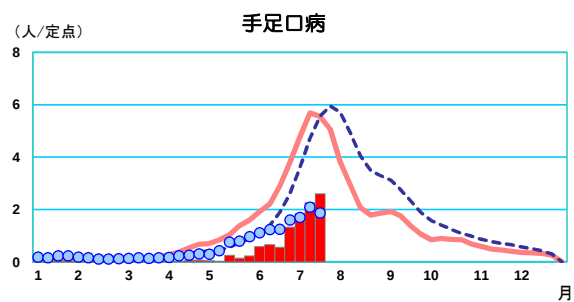
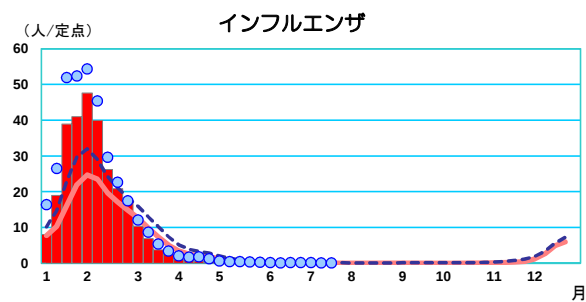
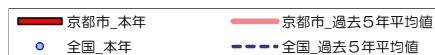
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5. 21	224
	② 手足口病	2. 60	112
	③ ヘルパンギーナ	1. 84	79
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 05	45
	⑤ 突発性発しん	0. 40	17
眼科	流行性角結膜炎	0. 30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年7月25日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第29週(7月16日～7月22日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

発生動向

京都市の腸管出血性大腸菌感染症は第29週に1例の報告があり、年間累積報告数が9例となりました。全国の報告数は3週続けて増加しています(図1)。また、京都市の過去5年の累積報告数を比較すると、毎年の発生動向に大きな差異はなく、例年6月ごろから10月ごろにかけて報告数が増えます(図2)。本年も6月(第24週)から7月(第29週)にかけて5件の報告があり、例年同様に増加傾向が見られますので、今後の発生動向に注意が必要です。

症状

この感染症の症状は、3～5日の潜伏期間のあと、激しい腹痛、水様性下痢及び血便を特徴とします。原因となる腸管出血性大腸菌には約180種類の血清型が存在しますが、なかでもO157は感染力が強く、ごくわずかな菌量でも感染します。加えてベロ毒素を産生するため、合併症などを引き起こし、重症化する場合があります。とりわけ、合併症の中でも重篤な溶血性尿毒症症候群(HUS)は、乳幼児や高齢者で発症率が高い傾向にあります。

京都市の過去5年の年齢階級別報告数をみると、どの年も若年層の報告が多いことが判ります。とくにHUSを起こしやすい乳幼児(0～4歳)が相当数を占め(図3)、保護者や保育施設など、周囲の大人の予防対策の徹底が重要です。

予防

感染経路については、飲食物を介する経口感染と、感染した人からの二次感染があります。感染を予防するには、食中毒予防の基本(菌やウイルスをつけない、増やさない、やっつける)を守ることが重要であり、特に食肉等の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や適切な手洗いが有効です。また、バーベキューなどをする際には生肉を扱う箸と、食べる箸を区別しましょう。

8月1日から31日は食品衛生月間です。また8月1日は食の安全・安心デーとなっています。

「食中毒予防」や「手洗いの方法」を下記URLで紹介していますので御活用ください。

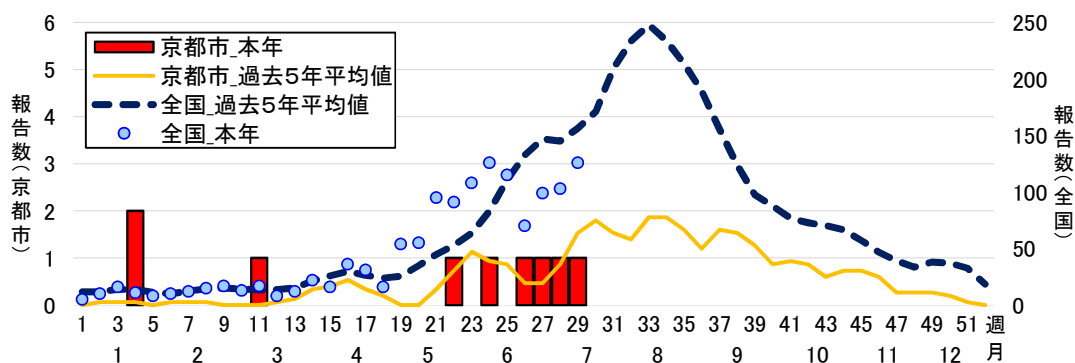
○「食中毒を防ぐ3つの原則・6つのポイント」(政府広報オンライン)

https://www.gov-online.go.jp/featured/201106_02/index.html

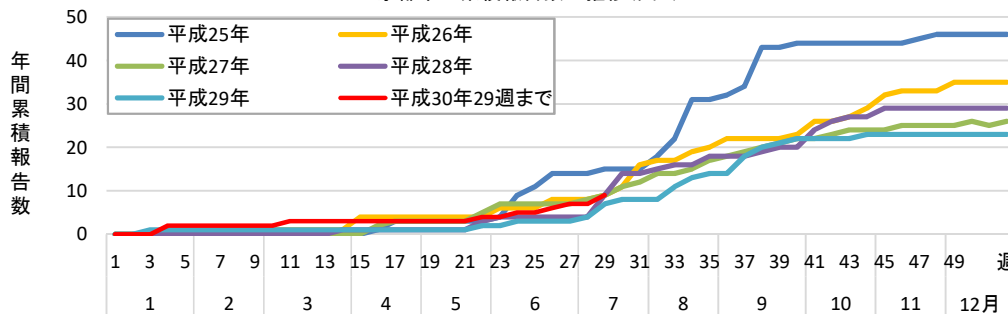
○「手洗いの方法」(衛生環境研究所ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

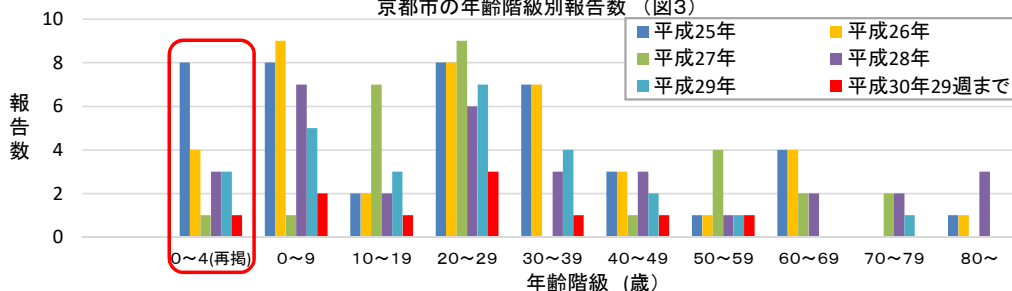
京都市及び全国の報告数の推移(図1)



京都市の累積報告数の推移(図2)



京都市の年齢階級別報告数(図3)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第29週

疾病,行政区別報告数

平成30年7月16日～平成30年7月22日

データ入手日:平成30年7月25日

	インフル エンザ (※1)	R S ウィ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	2	2	-	5	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	1	6	-	11	-	2	3	-	-	-					
左京	2	-	-	2	84	-	18	-	4	6	-	-	-					
中京	-	1	-	3	7	2	10	1	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	2	-	1	19	1	-	-	-	4	-							
山科	-	3	1	7	8	-	3	1	3	13	1	-	1					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-							
南	-	-	1	1	10	2	6	-	4	10	-							
右京	-	-	11	14	17	-	30	-	-	13	1	-	-					
伏見	1	1	2	7	49	3	19	-	3	16	2	-	2					
西京	-	1	-	7	22	2	10	-	1	4	1	-	-					
京都市計	3	8	15	45	224	10	112	2	17	79	5	-	3	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ (※1)	R S ウィ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	0.50	0.50	-	1.25	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	0.33	2.00	-	3.67	-	0.67	1.00	-	-	-					
左京	0.29	-	-	0.50	21.00	-	4.50	-	1.00	1.50	-	-	-					
中京	-	0.33	-	1.00	2.33	0.67	3.33	0.33	-	2.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.00	-	0.50	9.50	0.50	-	-	-	2.00	-							
山科	-	0.60	0.20	1.40	1.60	-	0.60	0.20	0.60	2.60	0.20	-	1.00					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-							
南	-	-	0.33	0.33	3.33	0.67	2.00	-	1.33	3.33	-							
右京	-	-	2.20	2.80	3.40	-	6.00	-	-	2.60	0.20	-	-					
伏見	0.09	0.14	0.29	1.00	7.00	0.43	2.71	-	0.43	2.29	0.29	-	1.00					
西京	-	0.20	-	1.40	4.40	0.40	2.00	-	0.20	0.80	0.20	-	-					
京都市計	0.04	0.19	0.35	1.05	5.21	0.23	2.60	0.05	0.40	1.84	0.12	-	0.30	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第29週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年7月16日～平成30年7月22日

データ入手日:平成30年7月25日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
年齢3	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
年齢4	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	8	1	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽頭結膜熱		15	-	-	4	5	3	1	-	1	-	1	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		45	-	-	1	4	5	5	8	7	5	1	4	3	-	2						
感染性胃腸炎		224	2	14	33	24	17	16	19	18	8	11	7	22	6	27						
水痘		10	-	-	1	1	-	-	3	3	1	-	1	-	-	-						
手足口病		112	1	11	31	24	18	6	7	3	2	3	2	1	-	3						
伝染性紅斑		2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		17	-	2	11	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		79	-	4	30	19	8	4	4	3	-	1	1	5	-	-						
流行性耳下腺炎		5	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	-	1	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
年齢3	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
年齢4	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.04	-	-	-	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.19	0.02	0.07	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽頭結膜熱		0.35	-	-	0.09	0.12	0.07	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.05	-	-	0.02	0.09	0.12	0.12	0.19	0.16	0.12	0.02	0.09	0.07	-	0.05						
感染性胃腸炎		5.21	0.05	0.33	0.77	0.56	0.40	0.37	0.44	0.42	0.19	0.26	0.16	0.51	0.14	0.63						
水痘		0.23	-	-	0.02	0.02	-	-	0.07	0.07	0.02	-	0.02	-	-	-						
手足口病		2.60	0.02	0.26	0.72	0.56	0.42	0.14	0.16	0.07	0.05	0.07	0.05	0.02	-	0.07						
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		0.40	-	0.05	0.26	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		1.84	-	0.09	0.70	0.44	0.19	0.09	0.09	0.07	-	0.02	0.02	0.12	-	-						
流行性耳下腺炎		0.12	-	-	-	-	0.02	-	0.02	0.02	0.02	-	-	0.02	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	0.10	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第29週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年7月25日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	–	–	2	–	2	3
RSウイルス感染症	5	11	11	8	11	8
咽頭結膜熱	20	16	15	10	16	15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	81	65	95	61	45
感染性胃腸炎	337	314	288	270	213	224
水痘	5	15	7	13	5	10
手足口病	28	24	57	79	97	112
伝染性紅斑	–	1	3	4	6	2
突発性発しん	17	23	22	18	25	17
ヘルパンギーナ	27	22	34	52	68	79
流行性耳下腺炎	7	2	–	1	–	5
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	6	4	6	2	6	3
細菌性髄膜炎 (※2)	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎 (※3)	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎 (※4)	–	–	–	–	–	–
合 計	533	513	510	552	510	523

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	–	–	0.03	–	0.03	0.04
RSウイルス感染症	0.12	0.26	0.26	0.19	0.26	0.19
咽頭結膜熱	0.47	0.37	0.35	0.23	0.37	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.88	1.88	1.51	2.21	1.42	1.05
感染性胃腸炎	7.84	7.30	6.70	6.28	4.95	5.21
水痘	0.12	0.35	0.16	0.30	0.12	0.23
手足口病	0.65	0.56	1.33	1.84	2.26	2.60
伝染性紅斑	–	0.02	0.07	0.09	0.14	0.05
突発性発しん	0.40	0.53	0.51	0.42	0.58	0.40
ヘルパンギーナ	0.63	0.51	0.79	1.21	1.58	1.84
流行性耳下腺炎	0.16	0.05	–	0.02	–	0.12
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	0.60	0.40	0.60	0.20	0.60	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎 (※3)	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎 (※4)	–	–	–	–	–	–
合 計	12.86	12.24	12.30	12.99	12.30	12.37

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。